

PEARL BOWL TOURNAMENT



X League
X League
NEWS 2006.04.30

発行：エムアイブランニング
監修：日本社会人アメリカンフットボール協会

2006年04月29日（アミノバイタルフィールド）

明治安田パイレーツ

1Q:0 2Q:14 3Q:0 4Q:8 = 22

ルネサスハリケーンズ

1Q:0 2Q:8 3Q:0 4Q:7 = 15



パイレーツ開幕戦制す

開幕戦勝利に向けて声援を送る明治安田パイレーツチアリーダーたちアミノバイタルフィールド（エムアイブランニング・山川静子）



【明治安田-ルネサス】4Q11分、明治安田・松下（右）が逆転のタッチダウンTFPも決まり22-15とするアミノバイタルフィールド（エムアイブランニング・嶋口雄治）

明治安田、終了間際の逆転で開幕戦を飾る

【評】パールボウルトーナメントの開幕戦、明治安田パイレーツとルネサスハリケーンズの試合は、終盤までルネサスがリードする大接戦となった。立ち上がりの1Qは、両チームとも無得点。先手をとったのは明治安田。第2Q開始間際にQB・君川（#17）からWR・二宮（#88）へのTDパスが決まるもTFPは失敗に終わる。その後は、ルネサスがすかさず反撃、TE/RB・錠（#97）が22ヤードのTDランと2点のTFPで8-6と逆転。しかし、明治安田も反撃し、前半終了間際にQB・君川（#17）からのWR・海道（#18）へTDパスがヒット14-8で折り返した。（裏面へ）

日産逃げ切る

2006年04月29日 (アミノバイタルフィールド)

日産スカイライナーズ
1Q:13 2Q:0 3Q:0 4Q:0 = 13

オール三菱ライオンズ
1Q:0 2Q:0 3Q:10 4Q:0 = 10



【日産-オール三菱】1Q9分、インターセプトリターンによるタッチダウンを決め喜ぶ日産・前田(右)
=アミノバイタルフィールド(エムアイプランニング・嶋口雄治)㊦

日産が序盤のリードを守って白星スタート

【評】小雨混じりの中始まった日産スカイライナーズVSオール三菱ライオンズの試合。春の初戦ということもあり、第1Q序盤は両者とも動きが固く、リズムを掴めぬまま攻守交代を繰り返した。先に均衡を破ったのは、日産。自陣33ヤードから始まった第3シリーズで、QB・藤澤(#11)からWR・高林(#3)への20ヤードのパスでTD、TFPのキックも成功させ、7-0とリードを奪う。エンジンのかかった日産は、続くのオール三菱のシリーズで自陣28ヤード地点からオール三菱QB・木目田(#17)の放った浅いゾーンへのパスを、日産DB・前田(#17)がインターセプト、そのままエンドゾーンに持ち込みTD。13-0と得点を重ねた。その後、両者一步も引かず均衡を保ったまま、前半を終了。後半に入ると、ようやくエンジンのかかり始めたオール三菱オフェンスが、後半最初のシリーズでFG、第2シリーズでは、QB・木目田(#17)がWR・佐倉(#15)への22ヤードTDパスを成功させ、連続得点で13-10と追い上げた。4Q、オール三菱は自陣23ヤードから、実に9分もの時間を使うオフェンスを展開、日産陣内に迫るが、ゴール前2ヤードでの4thダウンのギャンプルに失敗。試合は13-10で日産が初戦勝利で終えた。



【明治安田-ルネサス】2Q2分、ルネサス・皆川(中央)が走り込みタッチダウンTFPも決まり8点目を挙げる
=アミノバイタルフィールド(エムアイプランニング・嶋口雄治)㊦

第3Qは、得点が入らないまま追加点を奪ったのは、ルネサスハリケーンズ。QB・皆川(#9)が自ら持ち込んで、15-14と再び逆転。

試合はこのまま終わるかに思われたが、終了間際に明治安田のオフェンスで、交代出場したQB水野(#7)からWR・松下(#87)へのTDパスで再逆転。

2点TFPも決まって、ファイナルスコアは、22-15。明治安田が開幕戦をものにした。総攻撃ヤードも、明治安田が387ヤード、ルネサスが337ヤードと、接戦を物語るスコアとなった。

【日産-オール三菱】4Q8分、QBからパスを受け相手陣内へ攻め込むオール三菱・新田(中央)
=アミノバイタルフィールド(エムアイプランニング・嶋口雄治)㊦

